



創刊号を発行後、記事について「面白かったよ」という声を耳にしてスタッフ一同とても喜んでいました。まだ軌道に乗ったとは言えないのですが、岐阜高専通信冬号を皆様にお届けできることを嬉しく思います。第2号も楽しんでいただけたら幸いです。

編集長

Series

キャンパスの不思議探訪

安藤記念館の安藤さん

岐阜高専の人間なら、誰でも馴染みがある「安藤記念館」、安藤さんというのがどんな方ですら安藤記念館という名称になったのだろうと不思議に思っている人も多いと思います。そこで安藤記念館建設のいきさつについて調べてみました。これは岐阜高専の事務職員として長く務められた蒲さんに伺った話と本校の10周年史、20周年史の記録からまとめたものです。

安藤記念館は当時の真正町在住の安藤柳司（あんど うりゅうじ）氏から岐阜高専創立10周年を記念して、昭和43年11月に体育活動を使用目的とする建物を建設して寄贈するという目録を本校がいただいたということがありました。ただ、のちのオイルショックの影響で、建築資材が高騰し、昭和48年12月に竣工した際は今の形（当初の計画ではもっと大きな体育館になる予定だった）に落ち着いたようです。

そうした経緯で安藤氏の名前をいただいて安藤記念館という名称になった訳です。昭和48年、戦後、日本の社会が発展していく中、産業社会の発展を支えるエンジニアを育てる学校として岐阜高専が地域の方たちに期待されていたこと。特に運動のための施設ということを考えると健やかに成長してほしいという願いを持っておられたのだろうということが想像できます。

この安藤記念館、流石に今では少しくたびれて見えるのですが、よく見ると大小二つの台形が真ん中のエントランス部で繋がれており、上部に明かり取りの窓が設けられているという当時としてはかなりカッコいいデザインがされています。キレイにしたら今でもかなりいける建物ではないでしょうか。

今でも地域の方達とお話しする機会があると、社会を支えるエンジニアを育てる学校としての評価や期待、地域の学校として岐阜高専があることの誇りをひしひしと覚えることがよくあります。そんな時には岐阜高専はこれまで地域に支えられてきたのだし、これからも支えていただいていたのびのびとした学びの場であることができるのだらうとあらためて思います。

柴田・今田



Series こうせん歳時記

可愛い暗殺者 モズ

モズは高専の敷地でよく見かける鳥です。群れを作ることはなくほぼ1羽で行動しています。スズメより少し大きく、頭でっかちの容姿やオレンジと白の胴体、褐色の羽根、目を通る黒っぽい過眼線というデザインも可愛らしい鳥です。冬はふさふさの毛になり、モコモコしてさらに可愛くなります。渡り鳥ではないのですが、どうも夏が苦手らしく、真夏は高専の敷地からいなくなります。どうも涼しい森の奥に逃げ込んでいるようです。夏が終わると高専に戻ってきて、電線や木の上で<キチキチキチキチ>とナワバリを主張するモズの鳴き声をよく耳にします。私はこのモズの鳴き声を聴くとモズが「俺様が戻ってきたぞ。ここは俺様のナワバリだぞ。」と空威張りしているような気がして思わず笑ってしまいます。モズは漢字で<百舌鳥>と書きますが、様々な鳴き方をすることに由来しているようです。この色々な鳴き方というのを確認できてはいないのですが、ナワバリを主張する時とは違う可愛らしい鳴き声で鳴いていることもあります。

観察していると癒される可愛らしい鳥のモズですが、よく見ると嘴（くちばし）の先は湾曲し、鋭くなっています。これは小動物や小鳥の肉を引き裂いて食べるための形態で、タカ目に属する猛禽類などに見られる形です。モズはスズメ目の鳥で、系統樹上ではタカ目から離れているのですが、肉食というライフスタイルを長い間続けた結果、タカなどと似た嘴の形態に収斂進化しました。その食性によって<小さな猛禽類>や<締め殺す天使>などと呼ばれることもあるモズにはトカゲ類や昆虫といった獲物を木の枝などのとがったものに刺す早贄（はやにえ）という習性があります。私はまだ学校の構内では見たことがないのですが、ある職員の方が「よく昆虫などが枝に刺さってますよ。」と教えてくれました。最近はキャンパス内でモズの早贄を見つけないかと思ってよくキョロキョロしています。もし、見つけたら教えていただけると嬉しいです。

今田



Series 私の好きなキャンパスプレイス

岐阜高専のキャンパスは私たちが生活の中で多くの時間を過ごす場所です。キャンパスライフの中で多くの人が自分だけのお気に入りの場所を持っていると思います。このシリーズはそんなお気に入りの場所をシェアするためのシリーズです。1回目は大石記者が自身のお気に入りの場所を紹介してくれました。大石記者はその場所は特定の天候の時にだけキャンパスに現れると言います。さて、どんな場所なのでしょう？

雨の日は耳をすませて

「雨の日は気分が沈む。」多くの人がそう思うことだろう。私もまた、その一人である。雨に濡れた服は不快で、髪は湿気を吸って無様に乱れ、靴は雨水を吸いぐしょぐしょと音を立てて歩くたびに足元が重たく感じられる。そんな時、心は一層暗く、どこか虚ろなものを感じてしまうのだ。

だが、奇妙なことに、そんな雨の日だからこそ、私が最も心惹かれる場所がある。それは専攻科棟と4年生棟の間にある何もない空間である。読者の中には「そんな場所に一体何の魅力があるのか？」と、不可解に思う者も多いだろう。しかし、私はこの場所に一種の楽しみを見出しているのだ。

この空間には、雨音が他のどこよりも深く響き渡る。まるで何か生命を持った存在の吐息のように、「ぼこん、ぼこん」と耳を打つ。その音は、どこか遠い異国の太鼓のようだ、と私は感じた。タブラー、そうだ。北インドの打楽器であるタブラーに似ている。タブラーとは、二つの太鼓から成り、高音を奏でる「タブラー」と低音を響かせる「バーヤ」とで、驚くほど繊細かつ複雑なリズムを紡ぎ出す楽器だ。指先の絶妙な動きで音が織りなされ、時に激しく、時に柔らかく、聴く者を深い陶酔の中へ誘う。

日本では、U-zhaan という名のタブラー奏者が知られている。彼は特に多彩な音色を紡ぐ名手だ。余談だが、彼が環 Roy、鎮座 DOPENESS と共に発表した曲がある。その名も「エナジー風呂」。そこに加わったのは、あの坂本龍一だ。彼の音楽は、私たちの現代の文明が作り出した安らぎと、同時に感じる得体の知れぬ寂しさを巧妙に表現している。お風呂に入りながら、その音楽を聴いてみると、日常の雑念がすべて消え去り、ゆったりとした時の流れに身を委ねる心地良さを覚えることだろう。

話を戻そう。なぜ専攻科棟と6号館4年生棟の間のこの空間で、そんな風に心地よい音が響くのだろうか。私は、あの不思議な「ぼこん、ぼこん」という音の正体を探ろうと、しばし雨の中を彷徨った、と、格好をつけて言いたいところだったが、存外呆気なく見つかった。最初は、何か高い建物から滴り落ちる雨粒が、空洞の物体に当たっているのだと考えた。しかし、それは違っていた。音の源は、建物の間に設置されたグレーチングの下に隠れたパイプだったのだ。多量の雨水がパイプに流れ込み、あの独特な音でリズムを刻んでいた。

その瞬間、私はふと思った。こんな無機質なパイプにすら、楽しみを見出してしまうのは、私がただ、日常から逃避したいだけなのだろうか。いや、違う。たとえそれがどんなものであっても、楽しみや幸せを見出し拾い上げることで人生に色を付けることができるのだろう。

大石



時を超える～タイムカプセル顛末 その後

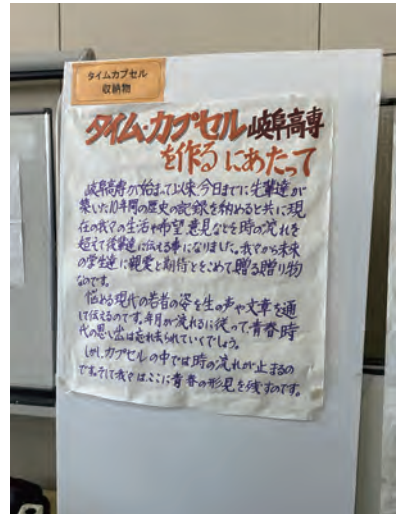
52 年越しの専門展

52 年前に当時の機械工学科 8 期生を中心に企画され、埋められたタイムカプセルの発掘の顛末を前号でお伝えしました。この時発掘されたタイムカプセルとその内容が昨年 10 月 26、27 日に開催された第 60 回高専祭（学園祭）で公開されました。

発掘されたタイムカプセルは本校各学科の 4 年生がその技術力と提案力を競う専門展が行われている第二体育館の一角で展示されました。右の写真は 52 年前の先輩たちからのメッセージです。これは今 70 代に入った先輩からではなく当時の若者たちからの声なのだととても感動しました。会場には当時の先生方からの色紙や学生会が発行した会誌や当時の少年ジャンプなどとても興味をそそられる様々なものが展示されています。中でも私が気になったのは当時のキャンパスを細かく作り込んだ模型です（写真 左）。学校の前庭や校舎、第一体育館など 当時の学生からのメッセージは今と同じにありますが、厚生棟の伊吹や第二体育館、安藤記念館などは当時なかったことが分かります。当時の写真を見ながらお話しを伺ったところ、当時は空地の所に自動車が一台中置いてあって運転の練習ができたそうです。

展示されているものが収められていた金属製の容器はとても丈夫です（写真 右）。また、中にドライアイスを入れることで空気を二酸化炭素に置換したそうです。52 年間の時を超えて劣化することなく保存されてきたということはかなり効果があったのだと思います。それほど工夫をしたのですが、肝心のタイムカプセルを埋めた場所を示す地図もタイムカプセルと一緒にに入れてしまったそうです。そのことが前号でお伝えした顛末に繋がったのかもしれません。「まだ我々も幼かったんだね・・・」と説明していただいた方も話されていました。

専門展と同じ会場で展示されていたこともあるかもしれませんが、実際に見て、お話しを伺っていると 52 年前の高専生が時を超えて、高専祭に参加しているんだと実感しました。



当時のキャンパスの模型



会場の様子



展示されたタイムカプセル